

夜明け

キリストの御臨在の使徒



ドーン誌

2025年6月

目次

特集記事.....	2
スピリットから生まれる	2
聖書研究.....	19
カインとアベルの供え物	19
ノアは祭壇を築く	23
アブラハムが息子イサクを差し出す	27
イサクは主の御名を呼ぶ	31
ヤコブ、石柱を立てる	35
クリスチアンの生活と教義	38
神の意志への承諾	38

聖書に沿って進む

スピリットから生まれる

「本当のことを言いますが、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」

私たちのタイトルである「御霊によって生まれる」と、冒頭の聖句に出てくる「新たに生まれる」という言葉は、イエス・キリストを個人的な救い主として受け入れた人の現在の状態を表すために、長い間クリスチャンによって使われてきた。また、多くの人は、このような主張をする人は、現時点での人生の行いに関係なく、失敗する可能性はほとんどないにせよ、死ぬときに天からの報いが保証されていると信じている。このような主張が決定的に重要であるはずなのに、「御霊によって生まれる」あるいは「新しく生まれる」とはどういうことなのかについて、それ以外の詳細を理解しようとするクリスチャンが比較的少ないのは驚くべきことである。

本文の言葉は、イエスがニコデモに語ったものである。ニコデモはパリサイ人であり、イエスとその教えについてもっと知るために、夜、師のもとにやっ

て来た。(ヨハネ3:1,2) ニコデモに対するイエスの言葉は、

聖霊、すなわち神の力によって成し遂げられる神の計画の重要な特徴に注意を促している。この神のご計画の特徴は、地上のすべての家族を祝福する父の王国でキリストとともに生き、治める者は、まず新しい命に「生まれ変わらなければならない」ということである。イエスは、その新しいいのちの特徴のひとつとして、風の目に見えない力を例に挙げられた。

ニコデモは、御霊によって生まれるというイエスの意味を理解していなかった。彼は尋ねた。「人は年老いてから、どうして生まれることができようか、二度目に母の胎内に入って生まれることができようか」(4節)。肉から生まれたものは肉であり、霊から生まれたものは霊である。(6節) ニコデモがこの説明を理解したかどうかは疑わしい。しかし、この説明は、イエスが論じている新しい命に関連する誕生という考えが、象徴的な意味でのみ使われているという事実を伝えている。ニコデモが示唆したように、文字通り二度目に生まれるために再び母の胎内に入ることではない。

聖書ではよくあることだが、ここでは偉大な真理を理解するために、言葉のあやが用いられている。born（生まれる）という言葉は、私たちの心に即座に新しい命を思い起こさせる。イエスは、聖霊の力によって、

、何人かが新しい誕生を経験することになる、と言っているのである。これは「肉から生まれる」人生とはまったく異なるものであり、そこに生まれる者は目に見えず、また力強いものとなる。聖霊、すなわち神の力によって生まれるのだから、彼らは神の霊の子となる。第1ヨハネ3:2

聖霊の誕生は、新生するために文字通り母親の胎内に入る必要を伴うものではないが、新約聖書のさまざまな著者は、主の聖別を受けた信者の心と人生における聖霊の働きのこの側面に言及する際、この比喻をかなり詳細に用いている。残念なことに、聖書の翻訳によっては、ほとんどの場合、著者が心に留めていたことを明確に示すことができない。そのため、人は肉にありながら御霊によって生まれることができるという誤った見解が生まれてしまった。この誤りから、"生まれながらのクリスチャン"という表現が生まれた。

新約聖書の時代に話されていたギリシア語では、生と誕生の両方を表す単語はひとつしかない。その言葉は「ゲンナオ」である。従って、イエスや使徒たちが使用した場合、文脈から、初生と誕生のどちらを指しているのか、

、場合によっては、新しい生命を誕生させる完全なプロセスを意味しているのかを判断しなければならない。

マタイによる福音書1章1節から16節にイエスの系図が記されている。「アブラハムはイサクを生み、イサクはヤコブを生み、ヤコブはユダとその兄弟たちを生んだ。この記述では "begat" という単語が39回使われているが、どの例でも begat と訳すのが正しい。この場合、明らかに begat が正しい訳である。アブラハムがイサクを産んだ」というのは、なんと奇妙な響きだろうか！この聖句の例は、人間の自然界では、男性が産み、女性が産むという事実を指摘している。新しい命が始まるには、どちらも必要なのだ。

別の例では、ギリシャ語の "gennao" という単語が二度使われており、同じ節で "born" と "begotten" の両方が訳されている。私たちは、神から生まれ

た者はだれでも罪を犯さないことを知っている。(1ヨハネ5:18)

一貫性を持たせるために、翻訳者は両方の例で

"begotten

"という単語を使うべきだった。そうしなかった唯一の理由は、訳語の繰り返しを少なくするためだったと思われる。

いま生まれ、復活のうちに生まれる

誕生の比喩の完全な意味を考えるならば、人は生まれるためには、まず生まれなければならないと結論づけなければならない。つまり、新しい生命を誕生させるためには、まず「生む」ことが必要であり、その後に妊娠期間があり、その間に胎児は栄養を与えられ成長し、適切な時期に誕生する準備が整うのである。このように、聖書には聖霊の二重の働きが示されている。イエスがニコデモに「あなたは新しく生まれなければならない」と言われたのは、神のみこころを行うことに全力を尽くす者たちに、復活のうちに新しい、より高次の生命を与えるという聖霊の完成された御業について語っておられたのである。ニコデモへの短い教えの中で、イエスは、誰かが御霊によって生まれる前に、まず御霊によって生

まれなければならないことを、詳しくは語らなかった。しかし、新約聖書の他の箇所では、これらの詳細が明確に記されている。

ヤコブ1:18)

これは重要な文章である。なぜならば、キリスト者の誕生は肉体的なものではなく、心や精神的なものであることを示すだけでなく、それは神によって成し遂げられるからである。(ヤコブ1:18)これは重要な文章である。なぜなら、この文章は、クリスチャンの身体的なものではなく、心と精神的なものであることを示すだけでなく、それが

"真理のことにによって" "神の意志によって、成し遂げられたことを示すからである。ペテロ第一の手紙1章23節にも、これと同じことが書かれている。堕落した種からではなく、朽ちることのない種から、生き、永遠にとどまる神の言葉によって、生まれ変わるのです」。ここで、"gennao" "は"begotten"と訳するのが正しい。

ペテロは "種"について言及している。自然な子孫繁栄の過程では、種によって成し遂げられるのは「誕生」ではなく「受胎」である。従って、使徒はここで、新しいのちの始まり、つまり「種」のことを指している

のであって、誕生によって完成することを指しているのではない。その種とは、"神の言葉"である。

私たちは、聖書に書かれている神の言葉はすべて、聖霊の靈感を受けていることを学んだ。旧約聖書の預言は、昔の聖なる人々によって

"聖霊の靈感を受けて"書かれた。(2ペテロ1:21) イエスの教えはすべて、聖霊によって彼の心と心が照らされた直接の結果である。使徒の著作も同様である。イエスは聖霊の到来に言及するとき、それを"真理の霊

"と表現した。(ヨハネ15:26；16:13) それゆえ、真理の言葉によって生を受けるということは、聖霊によって生を受けるということであることは明らかである。

これは重要な事実であり、この事実をはっきりと理解することは、多くのクリスチャンが抱いている、聖霊が信者の人生に直接入り込み、すべての罪から清め、決して恵みから落ちることがないと信じている考えから私たちを守る助けとなる。一度恵みにあずかると、常に恵みにあずかることができる」というのは、このような誤った考え方である。

ヤコブとペテロは、私たちに真の考えを与えている。それは、真理の御言葉を通して、信者の心と心に新しい命の始まりが起こるということである。それでは、神の言葉を読む者は皆、聖霊によって生を受けるということにならないだろうか。そうではない。この比喻をさらに考えてみよう。受精するためには、種を受け入れるためのすべての条件が整っていないなければならない。聖霊に生を受ける場合もそうである。多くの人が神の御言葉を読むが、その心や精神は生命を与える真理を受け入れることができない。

完全降伏

神の意志と神の言葉の聖なる衝動に全面的に降伏することが、真理の言葉を通して聖霊の生む力を真に受ける準備をするために必要な条件である。神聖な平面上で不滅の生命を獲得するために、少数の者がこの素晴らしい計らいを行うという神の役割は、神の霊の靈感を受けた御言葉、いわば種を供給することであった。神の計画のこの側面は、信者の思考に対する神の思考の力によって達成される。たとえ無限の力をもってしても、創造主は他の人の心に侵入し、新しい心の開発を始めることはない。

ここに、私たちの天の父の最も素晴らしい特徴の一つが反映されている。天地創造と人間が住むための大地の準備に関連して神の霊が水の面を動かされたとき、それは神の力の恣意的な行使であったが、キリストとともに生き支配する者たちの誕生においてはそうではなかった。主はその力を行行使して、これらの者たちに関する御心を表す御心を御言葉に込め、御心を知り、御心を行うために必要なすべての導きと助けが与えられることを保証されたのである。そして、御自分の摂理によって御言葉に接するようになった個人が、聖霊が御言葉を通して表現された御心に完全に屈服するかどうか、
、自発的に決断するのを待っておられる。

神はその尊い御言葉の中に、"栄光と誉れと不滅"に関する多くの素晴らしい約束を記録させておられる（ローマ2：7）。(ローマ2:7) 神は、これらの"非常に偉大で尊い約束"によって、私たちが"神の性質にあずかる者"とされることを明らかにされた。(2ペテロ1:4) 聖霊はイエスにこう言わせた。わたしがいるところに、あなたがたもいるためである。"ヨハネ14:2,3ヨハネ14:2,3

神の御言葉を学ぶとき、私たちはこれらの約束に目を留め、その素晴らしさを実感する。私たちはまた、ペテロが「返還」、すなわち地上の生活への回復と表現している、神が人類の世界のために備えてくださった輝かしい備えを喜ぶ。この世が始まって以来、神の聖なる預言者たちは皆、「万物の復帰の時」を予告していたのであり、私たちはこれらの地上の約束の成就を待ち望んでいる。使徒言行録3:20,21

しかし、聖書の天の約束に到達するには、降伏と犠牲が必要である。天の霊的誕生に至る道は、「狭く」
困難なものである。(マタイ7:14)
イエスは言われた。"だれでも、わたしのあとに来ようとするなら、自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしに従いなさい"。(マタイ16:24)
私たちはまた、私たちのからだを "生けるいけにえ"として捧げるようにというパウロの勧めも覚えている。(ローマ12:1) このような天の召命の条件は一見難しいように思われるが、私たちが忠実であれば、キリストと共に生き、キリストと共に治め、キリストと共に地上のすべての家族を祝福することが約束されている。黙示録20:4,6、創世記12:3、22:18、ガラテヤ3:8

天において神の神聖な家族の一員となり、来るべき神の王国において残りの人類を祝福しようとする人々にとって、神の御言葉に啓示された神の偉大な計画は、その神聖な建築家に対する評価を高め続けている。全世界の贖い主、救い主となるために御子をお与えになった神の愛は、このような人々から、御子に対するますます高まる愛を呼び起こすのである（ヨハネ3:16,17）。(ヨハネ3:16,17)人類のために苦しみ、死んでくださったキリストの愛は、彼らの心に深く深く届く。もし私たちが心の中にそのような崇高な思いを見いだし、それによって鍛えられるなら、パウロがそうであったように、私たちは「もはや（自分のために）生きるのではなく」、イエスのために、そしてイエスを世の救い主として遣わされた愛に満ちた天の父のために生きるべきであるという結論に達するだろう。第二コリント5:14,15

神の招きに応じて自らを神に委ね、神の霊に靈感された御言葉によって導かれるようになった私たちは、この条件を満たす人々に対する聖書の約束が私たちにも適用されることを知っている。天の住まいと神の性質についての感動的な約束は、以前のように、私たちから離れたもの、神の計画の興味深い特徴として見られるだけでなく、今や私たちの人生に生

命を与える影響力となる。神に委ねることで、種は一度に新しい命の希望を生み出し始める。私たちは"真理の言葉

"によって神から生まれたのだ。ヤコブ1:18

新しい命の奇跡

神だけが木を作ることができるように、すべての生命は、私たちの有限な頭脳では理解できない奇跡なのだ。私たちは生まれたばかりの赤ん坊の奇跡を目の当たりにして、実は両親がその子に命を与えたのではないことに本能的に気づく。彼らは、神が何千年も前に設計された、地球がやがて人間という被造物で満たされるための条件に従っただけなのだ（創世記1：28）。(創世記1:28)。もっと高い次元で言えば、これは真理の言葉によって神の子とされた者たちについても言えることである。これは神の偉大な奇跡のひとつであり、それに協力することは私たちの祝福された特権なのだ。

奇跡には、ほとんど瞬時に成し遂げられるものもある。イエスがマルタとマリヤの死んだ兄弟に「ラザロ、出てきなさい」と呼びかけ、死んでいたラザロが「出てきた」とき、それは短時間で行われた奇跡で

あった（ヨハネ11:43,44）。（ヨハネ11:43,44）しかし、宇宙全体に示された天地創造の奇跡は、長い時間をかけて成し遂げられた。聖霊の獲得と誕生の奇跡もまた、長い時間をかけて行われる。

産みの種、すなわち神の言葉を準備するために費やされた時間を考えてみよう。神の霊が奇跡的に聖書の執筆を導いたのだ。何千年という歳月が、こうして神の思想を、それが人間の心と頭に入り、熟慮され、読者の選択によって受け入れられ、あるいは拒否されるような形で記録することに費やされたのである。神は直接、人の心を神の考えで満たすことができたが、その考えが神から出たものだとどうやって知ることができるだろうか？その上、自分の心がロボットのように強制された考えで満たされていることに気づいたら、どんなに不愉快だろう。神の方法はなんと賢明なのだろう！神の奇跡を起こす力は、種となる者の心に入る準備として、その人の人生の状況を形作るために働いている。

神の御言葉を真剣に考えるようになるのは、神の助けが必要であることを悟ってからである。私たちの天の父は、その無限の知恵と愛の優しさにおいて、召された者が御言葉に耳を傾けることができるよう

に、御自身が召されたいと望まれる人々の心に最も効果的に触れる経験の種類を正確にご存知である。神の御霊による種子の準備がそうであったように、この御霊による受胎の準備の働きは奇跡的なものである。生まれたばかりの子供の誕生が奇跡であるように、神の計画のこの機能における神の役割は、あらゆる面で奇跡的であり、今も奇跡的である。

この目的のために神によって支配された人生の状況によって受容的な者とされ、神の御言葉を学び、そこに示された神の御心に人生を完全に委ねた者の場合、霊の誕生は確実である。神によってこのように扱われた者は皆、主に忠実であり続けるなら、"いのちの冠

"を受けるという確かな知識の中で、栄光と誉れと不死の約束を主張することができる。黙示録2:10

受精と誕生の図式に沿って、聖書は、胚の新しい命（

）が成長するにつれて、神の御霊が御言葉を通してそれを成し遂げることを明らかにしている。私たちの新しい霊的な心は、神の約束を糧とする。霊的な成長は、神に喜ばれるものであるならば、神のイメージに適合したものでなければならない。こうして神の御霊は、平和、喜び、寛容、愛というクリスチ

ヤンの実りの成長を促すのである。(ガラテヤ5:22,23;
2ペテロ1:5-7)

パウロは、この聖霊の働きについて美しい描写をしている。エペソ4:23,24

新しい命が誕生する準備が整うまで成長すると、私たちの墮落した肉体は死に至り、新しい命の誕生は復活によって成し遂げられる。(1コリント15:53,54) ここで、神の霊、すなわち力がさらに発揮される。パウロは、イエスを死者の中からよみがえらせるために、あるいは私たちが議論している象徴を使うなら、イエスの御霊の誕生をもたらすために用いられたこの強大な力について語る。パウロは「神を信じる私たちに対する神の力の驚くべき偉大さ」について語る。これは、キリストを死者の中からよみがえらせ、天の御国で神の右の座につかせたのと同じ力です。"エペソ1:19,20

ニコデモに語ったとき、イエスは復活の御霊によって生まれた者の特徴を説明するために風を使われた。(ヨハネ3:8) 風は目に見えず、力強い。真理の御言葉を通して御霊によってまず最初に生まれ、御言葉を糧として成長し続け、"聖徒の嗣業を分かち合う者

"となる準備が整うまで成長し続ける者は、皆そうである。(コロサイ1:12)

神の力は、これらの人々を天の命へと昇華させる。彼らは朽ちることのない不滅の天の体を与えられる。第1コリント15:40-44,53-58

キリストの血によって贖われるアダムの種族のすべてが、こうして天上の存在として生まれ変わるわけではない。イエスはニコデモに、生き直すためには生まれ変わることが必要だとは言われなかった。イエスが言われたのは、天にある神の国を見るためには、新しく生まれなければならないということだった。(ヨハネ3:3、マタイ4:17) それゆえ、この言及は、イエスの父が長い間約束しておられた王国で、天の支配者としてイエスと結ばれる人々を指している。どんな王国や政府にも、支配者と臣民がいる。イエスと現代の真の弟子たちは、神の国の支配者となる。そして、その人たちは新しく生まれ変わる。イエスは、人間から霊へのこの偉大な変化（）を最初に経験した。イエスの弟子たち、すなわち彼の真の教会は、時代の終わりの「最初の復活」において、この新生を経験する。(黙示録20:5,6) その時、回復された人間の命である神の回復の命の

約束が、天から地上のすべての家族に流れ出る。ヨ
ハネ3:14-17; 黙示録21:2-5

カインとアベルの供え物

キー・ヴァース「主はカインに問われた。なぜ、そんなに落ち込んでいるのか。正しいことをするなら、あなたは受け入れられる。しかし、正しいことを拒むなら、気をつけなさい！罪が戸口にうずくまって、あなたを支配しようとしている。

厳選された聖典
創世記4:1-25

墮落した人類において、嫉妬は種族の始まりからその醜い頭をもたげていた。カインとアベルの物語で展開される偉大な道徳的ドラマは、すべての人に深い教訓を与える。その教訓を熟考することは、正しい人生を育み、力づける。私たちのキー・ヴァースは、この物語の教訓の核心に焦点を当てている。カインはアダムとエバの間に生まれた最初の子である。カインの両親は、神からの子孫繁栄の賜物に感激し、畏敬の念を抱いたに違いない。しかし間もなく、アダムとエバはもう一人の息子アベルをもうけた。カインには、親の愛情や関心を得るための競争相

手が現れたのだ（
）。このことが、アベルに対する嫉妬の最初の原因
となったのかもしれない。

聖書によれば、アベルは羊を飼い、カインは土を耕
す者であった。やがて、カインは土の実を生け贄と
して主に捧げた。彼はその日、主に捧げた最初の者
であった。カインは、自分の捧げものが主よりも優
れていることに満足感を覚えたのだろう。次にアベ
ルが主にいけにえをささげた。アベルの捧げ物は、
彼の群れの初子とその脂肪であった。主はアベルと
その供え物を尊重されたが、カインとその供え物は
尊重されなかった。個人的な軽蔑と犠牲の拒絶に憤
慨したカインの表情は曇った。

アベルの捧げ物がカインの捧げ物よりも受け入れら
れたのは、単にそれが動物の犠牲であり、"地の果
実

"ではなかったからではない。明らかに、穀物、油
、ぶどう酒はイスラエルの幕屋の取り決めで捧げら
れ、神に受け入れられた。カインとそのいけにえは
拒絶された。カインの心は嫉妬に燃え、兄弟を憎む
ようになった。これこそ、あなたがたが初めから聞
いていたメッセージである。私たちは互いに愛し合

うべきであり、悪い者の仲間であって兄弟を殺したカインのようであってはならない。なぜ殺したのか。それは、彼の行いが悪であり、弟の行いが義であったからです」。第1ヨハネ3:11,12

主がカインを拒絶された原因は、こうして明らかになった！彼の行いは悪だった。しかし、主はいつになく憐れみ深く、カインを励まされた。なぜそんなに落ち込んでいるのか。正しいことをするなら、あなたは受け入れられる！罪がドアの前にうずくまり、あなたを支配しようとしている。しかし、あなたはそれを従わせ、その主とならなければならない。
"創世記4:6,7

私たちは皆、カインに対する主の教えから恩恵を受けらる。罪はドアの前に横たわっている。罪は私たち一人ひとりのすぐそばにあるが、私たちはそれを支配しなければならない！人生のあらゆる場面で、罪に抵抗しなければならない。ヘブル人への手紙の中で使徒がクリスチャンに勧めているように：「妨げとなるすべてのものを捨て去り、容易にからみつく罪を捨て去り、忍耐をもって走ろう。そして、信仰の先駆者であり完成者であるイエスに目を留めながら、私たちのために定められたレースを、忍耐をもって走ろうではありませんか。……罪人たち

からのこのような反対を耐え忍んだイエスを思いなさい。罪との戦いにおいて、あなたがたはまだ血を流すほど抵抗していない。"ヘブル12:1-4

ノアは祭壇を築く

キー・ヴァース「わたしは雲の中にわたしの虹を置く。

創世記9:13

厳選された聖典

創世記8:20-22、9:8-17

神の摂理による救いに感謝して、ノアは祭壇を築いた。そこで彼は、人類の歴史の新たな始まりを記念した。洪水は墮落した種族を粛清し、正しいノアとその家族だけが生き残った。主は、"人間の悪が地に満ち、その心の思いがことごとく悪のみである"

(創世記6:5) のを見ておられた。(創世記6:5) ノアが捧げたのは、聖書的に清いとされている動物だけだった。彼は、この先すべてが正しくあることを望んだのだ。彼のいけにえは、神になだめるような香りをもたらした。私は二度とすべての生き物を滅ぼさない。"創世記8:21

私たちは、再出発を願ったノアの心を称賛する。しかし、神の人間に対する評価は、"人の心の想像力は、その幼い時から悪である

"というものである。子供の頃、遊び場でいじめられたり、他人をいじめたりしたことのない人がいるだろうか？他人の悪口を言わないように唇を縛ったことのない人がいるだろうか？ほとんどいないだろう。

虹は、人間の理解をはるかに超えた神の知識と知恵を示している。「*Ex nihilo*（無から有へ）」とは、神が無から宇宙を創造したという概念を表す神学でよく使われる言葉である。パウロはこう断言している：「信仰によって、私たちは、宇宙が神の言葉によって創造されたことを理解します。ヘブル11:3

神は私たちの宇宙の構成要素である原子の複雑さと、そのすべての変種を設計された。私たちは、天地創造に込められた思いの深さに驚嘆する。すべての生命に不可欠な水を考えてみよう。1個の酸素原子に2個の水素原子を加えることによって、創造主は液体、気体、固体の形態で存在する物質を作られた。固体の氷は液体の水よりも軽いため、浮く。そうでなければ、地球の水のほとんどは一年中凍ったままになってしまう。また、水は雲（

）にもなり、その重さは何百万ポンドにもなるが、地球の上を優雅に浮遊し、地表に水を供給する。

雲が貴重な雨を降らせると、太陽光がその雨を照らす。水滴が光を屈折させ、さまざまな波長に分けることで、虹とその華やかな色のイメージが生まれる。これは偶然だろうか？そうではない！全知全能の神の計画されたデザインなのだ。"神の御業はすべて永遠の昔から知られている。"(使徒15:18)(使徒15：18) 虹は希望の象徴である。その美しさは私たちを鼓舞する。虹は、神が二度と洪水を起こして地球を滅ぼすことはないと言ったとノアに確信させた。神は言われた。"虹は雲の中にあり、わたしはそれを見て、神と地上にいるすべての肉なる生き物との間の永遠の契約を思い起こそう"。それは "永遠の世代"のためである。創世記9:16,12

このことは、私たちにとってもう一つの意味を持つ。"私たちは、主の約束に従って、義の宿る新しい天と新しい地を待ち望んでいます。"(第2ペテロ3:13)

義の宿る地とは、私たちが日々「御国が来ますように」と祈っている地のことである。(2ペテロ3:13) 義の宿る地とは、私たちが日々祈る地である。みこ

ころが天にいますように、地にも行われますように
"。マタイ6:10

アブラハムが息子イサクを差し出す

キー・ヴァースアブラハムはその地の名を『主が
備え給う』と名づけた。

創世記22:14

厳選された聖典

創世記22:1-18

私たちの重要な聖句は、聖書に記されている最も力強く、よく議論される出来事の一つから取られている。アブラハムとイサクが、イサクを燔祭として捧げよという神の命令に耐え、またイサクが父に殺されそうになったという体験に耐え、心に傷を負ったことは想像に難くない。聖書の歴史におけるこの重大な瞬間を探るために、多くの解説書が書かれてきた。しかし、この苦い物語は、アブラハムの約束の確認という貴重な実りをもたらした。「主はこう言われる：あなたがたはわたしに従い、あなたがたのひとり子さえも遠ざけなかったから、わたしは必ずあなたがたを祝福すると、わたし自身の名によって

誓う。わたしは、あなたの子孫（
）を、空の星や海辺の砂のように、数を超えてふやす。あなたの子孫は敵の町を征服する。そして、あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福される。創世記22:16-18

アブラハムの神への信頼は最高だった。おそらく彼は、神がこの信仰の実証を貫徹させることはないだろうと疑っていたのだろう。このことは、同行した者たちへのメッセージに暗示されている。神がイサクを捧げるようにと導かれた場所を見て、アブラハムは召使たちに言った。「少年と私は少し遠くまで行く。少年と私は少し遠くまで旅をして、そこで礼拝をし、それからすぐに戻ってきます。」（創世記22:5）。（創世記22:5）。彼は
"私たち"（複数形）と言った。

イサクは父アブラハムに語りかけた。すると彼は言った、『息子よ、ここにいます』。そして言った、『見よ、火と薪はあるが、燔祭のための子羊はどこにいるのか』。アブラハムは言った、『わが子よ、神はご自分のために燔祭のための小羊を備えてくださる』。それで、二人は一緒に行った」。創世記22:7,8

アブラハムがイサクを縛り、ナイフで殺そうとしたとき、主の使いがその手を止めた。そのすぐそばの茂みの中で茨に引っかかっていたのは、神の摂理によって用意された雄羊だった。イスラエルの幕屋で雄羊を捧げることは、以前に捧げられた子羊や雄牛を主が受け入れられたことを意味する。このことは、神がイサクの犠牲を完了したとみなし、雄羊がそれを受け入れたことを表していることを示唆している。

アブラハムは言った。"わが子よ、神はご自分のために子羊を備えてくださる"。主は備えてくださるし、実際、すでに備えてくださっている。「神は、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛されたのである。神が御子を世に遣わされたのは、世を断罪するためではなく、御子によって世を救うためなのです ヨハネ3:16,17

実際、イエスは世の罪を取り除く神の小羊であり、人類家族の回復のための命の門を開いてくださる。(ヨハネ1：29) 使徒パウロがガラテヤの信徒への手紙の中で述べているように、これは福音のメッセージの典型である。聖書は、神が信仰によって異邦人を義とされることを予見して、あらかじめアブラハムに福音を宣べ伝え、「あなたがたのうちに、すべ

ての国民は祝福されるであろう」と言われた。ガラ
テヤ3:8

イサクは主の御名を呼ぶ

キー・ヴァース「イサクはそこに祭壇を築き、主の御名を呼び、そこに天幕を張った。

創世記26:25

厳選された聖典

創世記26:16-33

この重要な箇所は、イサクが飢饉の時代に寄留した集大成に焦点を当てている。イサクは当初、ナイル川の安定した氾濫によって食糧と水が事実上保証されているエジプトに下ることを考えていたのかもしれない。父アブラハムはこの戦略をとった。(創世記12:10参照) しかし、イサクはエホバから約束の地にとどまるように指示された。神は、ご自身の民を維持する能力を示すために、客観的な教訓を与えようとされたのだ。主はイサクに安易な道を歩ませたくなかったのだ。教訓のポイント：非常に困難な状況であっても、神は与えてくださる。

水は飢饉を生き延びるために不可欠である。イサクは、父親がこの地に掘った井戸を思い出し、

、その井戸を探し出し、貴重な水の流れを新しくしようとした。井戸はどうなったのか？ペリシテ人が井戸を塞いで使えなくしたのだ。聖書の記録によれば、イサクは「ゲラルの谷に天幕を張り、そこに住んだ。イサクは、父アブラハムの時代に掘っていた井戸を再び掘った。アブラハムの死後、ペリシテ人が井戸をせき止めてしまったからである。創世記26:17,18; 21:25-31

父の信仰の記憶に対する敬意と尊敬が、井戸に過去の呼び名に従った名前を付けたいというイサクの願いに影響を与えた。これは、エレミヤのメッセージの精神に非常に近い：岐路に立って見よ。古き道を尋ね、良い道はどこかを尋ね、その道を歩め。(エレミヤ6:16) 私たちは、先祖たちが歩んだ "古道"を守るのがよい。そのような道は、地上で最も深い水の井戸である聖書の中に明らかにされており、そこから真理の生ける水が湧き出ている。

イサクは、アブラハムの井戸を再び掘るよう、しもべたちに指示した。最初の井戸から水が湧き出ると、喜びもひとしおだった。喜びも束の間だった。地元の牧畜民たち（
）が、イサクのしもべたちに「この水は俺たちのも

のだ」と言ってけんかしたのだ。イサクはその井戸を放棄し、"争い"を意味する"エセック"と名付けた。イサクのしもべたちは次の井戸を掘ったが、結果は同じだった。ゲラルの牧人たちは彼らと口論し、イサクは再びその井戸を見捨て、"反対

"を意味するシトナと呼んだ。神の約束への執着と信仰がイサクの決意を強め、彼は父の井戸を回復する仕事を続けた。創世記26:19-21

新しく修理された3番目の井戸からも水が湧き、その権利について争いはなかった。イサクはその井戸を"広い場所"という意味の"レホボテ"と名づけた。「主がわれわれのために場所を設けられたので、われわれはこの地で実を結ぶであろう。(22節)この喜びは、詩篇の「主はまた、わたしを広い所に連れ出し、わたしを喜ばせ、わたしを救い出された。(詩篇18:19) こうしてイサクは、父アブラハムがしたように、主の御名を呼ぶように促された。

現代の否定的な人々は、神の民が聖書という生きた水を得ることを否定するだろう。主はいつものように、私たちに与えてくださる。イサクがそうであっ

たように、私たちは喜び勇んで、救い主である主の御名を呼ぶ。

ヤコブ、石柱を立てる

キー・ヴァース「翌朝早く、ヤコブは頭の下に置いた石を取り、柱として立て、その上に油を注いだ。彼はその場所をベテルと呼んだ。

厳選された聖典
創世記28:10-22

今日の重要な箇所は、悲慘な状況に対する肯定的な結果を示している。ヤコブは兄エサウの前から逃げ出した。兄がイサクの祝福を奪ったことを知ったエサウは、殺意を抱いたという。彼は内心の復讐の思いを大声で口にした。イサクの家族の何人かがそれを聞き、報告した。状況を知ったレベッカは、ヤコブにパダン・アラムにいる兄ラバンのところへ行き、そこでおそらく妻を見つけるように勧めた。

レベッカは、ヤコブに代わって主の御心が行われることを望んでいた。エサウに祝福を与えようとするイサクの意図を知った彼女は、ヤコブと次のような会話を始めた。さあ、息子よ、私の言うとおりにしなさい。さあ、息子よ、私の言うとおりにしなさい

。群れのところへ行って、
、立派な若いヤギを二頭連れてきなさい。そのヤギ
を使って、父上の好物を用意しよう。そして、その
料理をお父さんのところに持って行き、お父さんが
死ぬ前に食べて、あなたを祝福するようにしなさい
。"創世記27:8-10

ヤコブは母に答えた。「兄のエサウは毛深い人です
が、私の肌はつるつるです。父に触られたらどうし
よう。父は、私が父をだまそうとしているのを見て
、私を祝福する代わりに呪うでしょう」。

しかし母親はこう答えた！私の言うとおりにしなさい。
私のために、外に出て、やぎを取ってきなさい
！」11-13節

怠惰な言葉はしばしば悪い実を結ぶ。リベカはヤコ
ブにこう言った。彼女はヤコブに二度と会うことは
なかった。

ヤコブはベエルシバから逃げる途中、ある場所に来て、
日暮れが近づいたので、眠りにつき、夢を見た。
"彼はある所に来て、日が沈んだので、一晩中そ
こにいた。そして、その場所の石を一つ取って頭に
置き、その場所に横になって眠った。すると彼は夢

を見た。見よ、地の上に梯子が立てられ、その頂は天まで伸びていた。"そこに神の天使たちが上り下りをしていた。創世記28:11,12

彼の夢の中で、神は梯子の上に立ち、こう言われた：「わたしはあなたの父アブラハムとイサクの神、主なる神である。あなたの子孫は地のちりのようになり、西にも東にも、北にも南にも広がり、あなたとあなたの子孫によって、地のすべての家族が祝福される。見よ、わたしはあなたとともにいて、あなたを守る」13-15節

ヤコブは、神が自分に対する偉大なアブラハムの約束を確認しておられることを認識し、枕に使っていた石を取り、それを祭壇として据えた。彼はそれに油を注ぎ、その場所を "神の家" を意味するベテルと名づけた。私たちクリスチャンは、私たちの希望と夢の土台となる油を注がれた石を持っているだろうか？確かに、私たちにはある。それは油注がれたイエスであり、私たちの信仰の岩である。

神の意志への承諾

「それは、わたしがこの方を知るためであり、また、この方の復活の力と苦しみの交わりとを知るためであり、また、この方の死にふさわしくされるためです。」

神の権威に従うという概念には、受け入れられた基準や型に従うという考えがある。キリスト・イエスを頭とする神の家族と、人類の中から贖われた「小さな群れ」を持つことは天の父の御心であり、彼らは最終的に栄光と誉れと不死を受ける。(ルカ12:32、ローマ2:7) このクラスの仕様は以下の通りである："神は、多くの兄弟たちの中で最初に生まれた者となるように、前もって知っておられた者を、御子のかたちに造り変えるように定められました。" ローマ8:29

キリストの熱心な信奉者たちは、このような高貴な報酬を得るための道には、自己否定、十字架を背負うこと、そして師の足跡に倣うことの過程が含まれるという聖書の証言を高く評価してきた。使徒パウ

口はこの関連で、次のように述べている。「兄弟姉妹よ、神の憐れみを考慮して、あなたがたのからだを聖なる生けるいけにえとしてささげ、神に喜ばれるようにしなさい。この世の型に合わせるのではなく、心の一新によって変えられなさい。そうすれば、神のご意志が何であるか、すなわち、神の良いご意志、喜ばれるご意志、完全なご意志が何であるかを試し、承認することができるようになる。ローマ12:1,2

忠誠心

忠誠とは、承諾によく似ている。そのような個人に対する部分的な同情とは対照的に、他者に対する忠実な忠誠を表している。信者は、世俗的な精神の持ち主と交わり、天の父に喜ばれる存在であり続けることはできない。彼らは主と義の原則に完全に従順でなければならない。キリスト・イエスは言われた。(ヨハネ18:36)

つまり、真のクリスチャンは、この "現在の悪の世" と結びつくことはできないということだ。(ガラテヤ1:4) さらに、私たちに敵対する勢力は、しばしば光の天使として現れ、惑わす。第2コリント11:14

「私たちの市民権は天にあり、私たちが努力しているのは、天の王国への豊かな入口を保証するためである。(ピリピ3:20) 偉大な敵対者の誘惑に対して妥協する態度では、何も得ることはできない。王の王に対する忠誠は、自発的で完全なものでなければならない。私たち（

）は、主であり救い主であることを知り、その知識に基づいて、主の大義の誠実さに全幅の信頼を寄せている。私たちの忠誠が完全であるべきなのは、私たちの王とキャプテンを愛しているからであり、彼や天におられる私たちの父を不愉快にさせることを考えると胸が痛むからである。

勇気

勇気もまた、神とその御心に従順な者に不可欠な資質であるが、それは自信から生まれるものであってはならない。自分の弱さを自覚している人は、天の父に信頼を置き、必要とされるあらゆる時に助けとなる恵みと力を求めるなら、勇気を持つことができる。(ヘブル4:16、箴言3:5,6) クリスマスが神とその隊長キリストを仰ぎ、彼らの力によって自分が強くされていることを悟るとき、その人は本当に勇気を持つことができる。イザヤ26:3,4

良き兵士として、私たちは戦っている大義に確信を持たなければならない。(2テモテ2:1,3)

奉仕している大義の正しさに対する私たちの信仰と確信は、私たちの救いの隊長に協力するための自由意志に基づく自己犠牲的な努力において、私たちの力と能力のすべてを呼び起こすほどに完全なものではない。(ヘブル2:10) クリスチャンの兵士として、私たちは、指導者が私たちにするよう求めることの妥当性について、精神的な

予約を持つべきではない。神とキリストに対する私たちの信仰は完全なものであるべきであり、たとえ私たちがあることをするよう求められている理由が必ずしも理解できなくても、私たちが天の知恵によって導かれているという事実に関心と信頼を寄せることができる。ローマ8:28

このコースを成功裏に修了するための鍵は、天の御父の御心を行うことに自分自身を従わせることである。神の御言葉の学びを通して明らかにされる聖霊の影響は、私たちをすべての真理へと導き、私たちの人生に忠実に適用されるとき、正しい人格をもたらすでしょう。ヨハネ16:13

クリスチャンとして、私たちが神の御心にますます「変容」していく限りにおいて、「真理の言葉」の

聖めの影響力は、私たちが霊的に進歩することを可能にする。(ローマ12:2、ヤコブ1:18、ヨハネ17:17) しかし、時には、私たちの行動や信念を、必ずしも私たちが理解する神の御心や、ある事柄に関する聖書の教えとは異なる基準に合わせるように、内からも外からも圧力を受けることがあります。私たちクリスチャンは、個々に神に対して自分の責務について説明しなければならない。(ローマ14:12; 1コリント4:2) ですから、私たちは、他の人がどう考えるかによって必ずしも導かれるべきではなく、真理を自分のものとし、昔の高貴なベレヤ人たちがそうであったように、「すべてのことを証明し、良いことを堅く守りなさい」。1テサロニケ5:21; 使徒17:11

アンティオキアでの偏見

クリスチャンの交わりの中で、考えや行動を一致させようとする影響や、同胞の信者が私たちをどのように見るかを過度に気にすることについて考えるとき、私たちの心に力強い教訓がもたらされる。ガラテヤ2:11-

21で、パウロは、おそらく多くのユダヤ人クリスチャンから第一の使徒とみなされていた使徒ペテロを

叱責する必要があった時のことを語っている。ペテロが初めてアンティオキアに来たとき、彼は異邦人として生まれたキリスト教改宗者たちと自由に食事をした。その後、エルサレムからユダヤ人クリスチャンの一団が訪ねてきた。彼らはまだモザイク律法に基づく様々な儀式を守っていたようで、彼らが到着すると、ペテロは自分の行いがエルサレムとそこにいるユダヤ人の兄弟たちに伝わることを恐れて、異邦人の兄弟たちとの交わりをやめた。

バルナバたちはペテロに倣った。ペテロは、コルネリオの改宗に関連して、神が "偏見を示されない"ことをよく知っていた。(使徒言行録

10:34) それゆえ、無割礼の信者たちとの食事を拒否したのは誤りであり、モザイク律法が "信仰の義"よりも高いレベルの聖別を与えるものであるとほのめかしたのである。(ローマ4:13) パウロは、ユダヤ人クリスチャンはキリストの贖いの犠牲を信じる信仰に基づいて新しい立場に立ち、律法に対して死んでいることを指摘し、ペテロの偽善を非難した。従って、律法は誰も義とすることができないので、異邦人は律法の下に置くべきではない。ガラテヤ2:14-21

もし、ペテロのような聖霊に育てられた教会の柱が、ユダヤ人の同胞たちが抱いていた不適切な信仰の影響に不当に屈し、神の明確な御心に従わなかったとしたら、私たちは今日、交わりの中で他の人々の意見に左右されやすいのではないだろうか。私たちが交わることのできる個々の教会、すなわちエクレシアは、私たちが召命と選びを確かなものとするために養われ、成長することができるように、天の父が備えてくださった特別な取り決めなのです。互いの学びにおいては、学んでいる内容の事実だけでなく、メッセージの背後にある精神も考慮すべきである。ローマ2:28,29; 7:5,6

たとえば、ヨハネの手紙第一3章14節には、「私たちは、
、兄弟を愛しているので、死からいのちへと移ったことを知っています。兄弟を愛さない者は、死にとどまっているのです」。私たちが互いに接するとき、この聖句は常に心に留めておくべきものである。しかし、私たちはこの新しい被造物という宝を土の器の中に持っており、主に仕えたいと熱望しているのですから、時として、兄弟愛の他のメンバーとは異なる表現をすることによって、摩擦が生じる機会があることは明らかです。(2コリント5:17;

4:7)私たちは、肉による外見からではなく、神が私
たちを召されたように、私たちと同じように肉と闘
っている他の宝石たちも見つけ出しておられること
を信じ、その知識に基づいて行動し、愛の精神で私
たちを結びつけるものに集中しよう。サムエル記上
16:7、第二コリント10:7

キリスト教の自由

神の御心に謙虚に従うことは、"主はこう言われる
"という明確な裏付けがない真理の項目に関して、
クリスチャンの自由を行使することに関しても重要
である。私たち一人一人が行うべきは単なる推測の
問題ではなく、私たちの言いたいことを証明する聖
句が本当にあれば、それで十分なのです。ある場合
において、

、私たちが信じる表現方法と調和しない考えが示さ
れたなら、天の御父がどちらか一方のために問題を
明確にするように意図されるまで、私たちは自由に
兄弟たちに個々に話し、愛のうちに話し合うべきで
ある。いずれにせよ、考えの正確な一致を得るため
に力を行行使すべきではなく、聖書が宣言しているよ
うに、"各人が自分の心において十分に説得される
ようにしなさい"。ローマ14:5

新約聖書の初期から、主の民の会衆はさまざまな場所に設立された。聖書は、このようなグループを設立するための指針を示している。(1テモテ3:1-7;

テトス1:5-9;

1ペテロ5:1-3)

長老であれ、助祭であれ、奉仕する者は、エクレシアの投票によって奉仕職に選ばれる。そのため、会衆をより高い権威として、また神の意志の指標として位置づけています。ある方針や実践に関して、クラスの判断が長老の判断と異なる場合、基本的な教義や道徳的な問題、良心に反する問題とは異なり、エクレシアの好みの問題であれば、長老はクラスの意志に従うべきです。一方、エクレシアが信頼する長老を選ぶという責任に則って、主は、会衆の投票によって特定の個人を選ばれた。従って、その長老が主のみこころを知り、忠実に行おうと努力していることに気づけば、それに比例して、その長老を支え、励ますことは、グループ全体の義務である。

パーティー精神

キリストのからだを構成する仲間同士の対抗意識、つまり党派精神は避けるべきである。私たちの主イエス・キリストの権威によって、親愛なる兄弟姉妹

の皆さん、互いに調和して生きようと訴えます。教会に分裂があってはなりません。むしろ、思いを一つにし、目的を一つにしましょう。親愛なる兄弟姉妹たち、あなたがたの喧嘩について、クロエの家の何人かが私に話してくれました。あなたがたの中には、『私はパウロに従っている。他の人たちは、『私はアポロに従う』とか、『私はペテロに従う』とか、『私はキリストだけに従う』と言っています。キリストは派閥に分かれてしまったのか。私パウロは、あなたがたのために十字架につけられたのか。あなたがたの中に、パウロの名によってバプテスマを受けた者がいたでしょうか」。神の民の間の分裂は、特に、私たちが御霊に生を受けたと考える他のクリスチャンとの交わりの機会を妨げるような圧力がある場合には、深刻な懸念を抱かなければならない。

もちろん、主の民の間に物理的な分離が必要な場合があるのは、非常に正当な理由かもしれない。とはいえ、私たちが互いをキリストの体における兄弟として認める限りにおいて、セクト主義的な精神が表れてはならない。聖典に認められていない人為的な壁を作り、些細な違いのために、ある兄弟たちが私たちの交わりに値しないと信じるなら、体の一致の

教義に反する精神を行使する危険がある。そのような精神は、私たちの交わりにおいて、神のみこころを受け入れていないことを示すことになる。詩篇133:1-3; エペソ4:1-3,15,16; ピリピ2:3

アイドル

前述と密接に関連しているのは、聖職にある指導者の偶像を作り出す可能性である。黙示録19章10節にはこうある：「私は彼を拝もうとその足もとにひれ伏したが、彼は言った。私は神のしもべであり、あなたがたや、イエスへの信仰を証しする兄弟姉妹と同じです。神だけを礼拝しなさい。預言の本質は、イエスのために明確な証しをすることだからです」。この文脈における使徒ヨハネは、キリストの体の忠実なメンバー、特に私たちが現在生きている時代（

）を代表していると示唆されている。この考えをさらに推し進めると、私たちは、神の真理を私たちに養うために役立っているかもしれない人々を崇拝しないようにと諭されていることになる。私たちは、主の奉仕に従事しているすべての人の忠実な努力に感謝すべきだが、彼らを礼拝の偶像として置いてはならない。ローマ1:25

使徒パウロの言葉にも、これと同じ考えがあるようだ。そのような人はまた、自分が見たことを事細かに語り、霊的でない心によって、くだらない考えを膨らませているのです。"(コロサイ2:18)(コロサイ2:18)

仕える者に過度の敬意を払うことは、私たちが注意すべき不適切な精神であり、クリスチャンに対する神の御心と調和していない。私たちは、神の奉仕のために忠実に働いているすべての人を認め、認めるべきですが、そのような態度を助長すべきではありません。

社会の圧力

世間からの基準に沿った圧力については、私たちの肉にとっては喜ばしいものであっても、神の御心に従うことを妨げるような影響がたくさんあります。このような理由から、私たちはこう読んでいるのです：「地上のことではなく、天国のことに心向けなさい。あなたがたは死んだのであり、あなたがたの命は神のうちにキリストとともに隠されているのです。」(コロサイ3:2,3)。(コロサイ3:2,3)。文化、レクリエーション、趣味に関する多くの活動は、罪にはならないが、肉にとっては喜ばしいものである。クリスチャンの自由を理解することは、律法

契約のもとでイスラエル民族に与えられたある種の禁止事項とは異なり、新約聖書には信者の行いに関連する多くの「してはならないこと」が見当たらないことを思い起こさせる。したがって、私たちは、神の御心に示された愛の律法と義の律法の精神を、心の中で全うしたいと願うのである。

クリスチャンの自由は、私たちが互いに規則を作ることを許さないが、それはまた、私たちが何の影響も受けずに自由に好きなことをできるという意味でもない。したがって、私たちは、さまざまな追求が肉を満足させるものなのか、それとも犠牲と聖別された生活の精神と調和するものなのかを判断するために、聖句の指針を求めることが不可欠である。個人的に吟味した結果、ある特定の活動が天の御父を称揚し、気高くするものであれば、私たちは可能な限りその活動に参加すべきです。一方、霊的な価値がないと思われる場合は、そのような良いものであっても犠牲の祭壇に供えることを望むかもしれない。

ホーム

神の御心に従う上で、私たちが考慮すべきもう一つの領域は、私たちの住まいについてである。確かに、主の民は皆それぞれ異なる状況にあり、私たちが執り成すことになった財力もかなり異なるかもしれない。あらゆる事業と同様に、この分野でも神の導きを求めるのは各個人の責任である。しかし、世の中では、おしゃれな家を持つことに大きなストレスがかかっていることは事実である。

このような例を挙げればきりがないだろう："主の民もまた、家の外観や大きさに並々ならぬ関心を抱いているのだろうか？"

と。クリスチャン仲間を快適に受け入れたいがために、多大な時間と費用をかけて、現在の住まいを大きく変えなければならないと合理化することは可能である。もちろん、他の兄弟姉妹がこのようなことをしていることを判断する立場にある人は誰もいない。しかし、そのような

関与や活動が、私たちが交わした犠牲の契約から何らかの影響を及ぼすかどうかについては、祈りを持って御父と交わる必要があるかもしれない。

職場で

仕事に関して、私たちの中には、非常に困難で試練的な状況に置かれ、肉体にかなりの不快感をもたらす人がいるかもしれない。その後、非常に有利な仕事の機会が訪れるかもしれないが、それは別のスケジュールで、あるいは遠方で働かなければならないかもしれない。新しい仕事の状況のために、特定のミーティングを定期的に欠席しなければならないかもしれない。このような決断を下す際には、主の御心を求め、それに従う必要がある。肉体が強いられている現在の困難な状況が許されているのは、主が私たちに忍耐と主への信頼を教えるための経験が必要だと知っておられるからではないだろうか。

一方、エチオピアの宦官を証しするためにピリポを砂漠に遣わされたときのように、移動が主の意志である場合もある（使徒8:26-38）。(使徒8:26-38)
このような経験は、もちろんそれぞれの状況によって異なる。聖書は、
、このような堅苦しい規則を定めてはいない。例外は、各自が "自分のものは自分で用意しなさい" ということである。(1テモテ5:8)

これを超えて、各自の状況に当てはまるかもしれな

い答えは、主の近くにいることによってのみ見つけることができる。

重要な4つのステップ

人生の経験において、神の意志を受け入れるための4つの重要なステップを考えてみよう。

1. 神の御言葉を頻繁に個人的に学ぶ。(2テモテ2:15)
私たちは主の足跡をたどる者であることを約束するので、自分の人生における御父の御心と導きを求め、自分の行いに適用できる神の原則に精通するために、定期的に聖書を調べる時間を見つけることが不可欠である。神が私たちの人生において本当に第一であるならば、私たちは神と交わり、神が私たちに与えたいと望んでおられる力を受け取ることができるように、スケジュールを調整しなければならない。

2. 定期的に出席し、交わりや学びへの参加を通して、地元の教会を支える。私たちは、「集うことをやめないで」という戒めをよく知っています。また、このような集まりは、
天の父から教えを受ける重要な手段であると感謝すべきです。(ヘブル10:25) このような場での互いの

結びつきは、とりわけ、私たちが正しく鍛錬されるなら、互いの貢献が互いの霊的な強さとすべての人の啓発をもたらすような相互作用を促進する。私たちは、「あらゆる共同体が供給するものである」と教えられています。そして、私たちの身近な交わりの人々や、機会あるごとに他の兄弟たちと会うとき、私たちは自己高揚の精神から守られるのです。エペソ4:16

3.犠牲の生活を送る。自己犠牲の度合いが高ければ高いほど、敵対者が私たちを陥れようとする貪欲な精神にさらされることが少なくなり、神の御心に従うことが容易になる。「肉の欲、目の欲、生活の高慢

"はすべて、聖霊の影響と、私たちの師が歩まれたように歩もうと努力する天の父への従順によって克服することができ、また克服しなければならない障害である。第一ヨハネ2:16

4.頻繁に、集中して祈る。私たちの生活を個人的に吟味する中で、神の言葉に反して、私たちが心の中に偶像を建てていることに気づいたら、ヨハネによる福音書1章9節のような文章から慰めを得ることができる。「もし私たちが自分の罪を告白するなら、

神は忠実で正しい方ですから、私たちの罪を赦し、すべての不義から私たちをきよめてくださいます。このように、私たちが主に喜ばれないこと、特に主の御心に従わなかったことについて、清めと助けを求めて恵みの御座に行くことは、私たちの特権であることがわかる。さらに、私たちが義と神を喜ばせることに非常に敏感であれば、たとえ軽率な行為に気づいていないときでも、私たちの心の祈りは次のようになる：「あなたのしもべを、故意の罪から守り、彼らが私を支配しないようにしてください。主よ、わたしの力、わたしの贖い主よ。"わたしの口のことば、わたしの心の黙想が、あなたの目にかなうものとなりますように。詩篇19:13,14

私たちが神の家族の一員として召されたことを考えるとき、私たちは神を畏れ敬うようになり、神を喜ばせ、神を敬い、神の御名を聖別するためなら何でもするようになるはずだ。本当に、"主を敬い恐れることは知恵の初めであり、主の御心を行う者は皆、良い理解と教えを受ける心を持っている"。詩篇111:10